いずみさの昔と今 第365回

「政基公旅引付」にみる当時の春

日根荘の領主九条政基の日記「政基公旅引付」には春をめでる漢詩や和歌が書かれています。例えば文亀2（1502）年2月25日条には「梅は紅兒を呈して芳春を奏で、風景を餝り成すに尤も仁有り、（後略）」（梅の花は紅色に咲き誇って香ばしい春を奏で、風景を美しく彩っては春の恵みを深める）という漢詩と、「梅は花松はみとりの春の日のめくみそ四方に天満る神」（梅が花開き松が緑を色濃くする春の日の恵みが至る所に満ちているのは天満天神のおかげです）という和歌があります。政基が滞在していた長福寺の中には天満天神社があり、その祭神である菅原道真と縁深い梅や松を強調する性格のものではありますが、少なくとも春は恵みの季節であり、梅や松がそれを彩るものとされていたのです。

こうした恵みの季節である春が立ち去ることを悲しんだ記事も見られます。文亀元年3月30日条で、都から日根荘に赴く政基は「われもたつ都をよその旅衣春の行末はいづくなるらむ」（春が今日で去ってしまうように私も京都を出発して旅に出ていきます、去っていく春はどこに行ってしまい、私の行く末もどうなるのでしょうか）という和歌を詠んでおり、ここから自身の行く末への不安と春が立ち去る悲しさが伺えます。

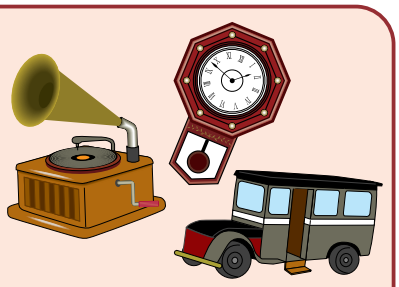
このように政基にとって春は恵みの季節でした。一方で民衆にとっての春は少し異なります。当時は秋に収穫した食料で麦が実る五月まで食いつなぐ必要がありました。そのため、食料が最も不足する春のなかばから初夏にかけてが、特に餓死者が出やすい時期でした。中でも文亀3年はひでりによって全国的に不作の年となったために、翌年には飢饉が発生します。日根荘も例外ではなく、政基の日記にも百姓が多数餓死したことが記されています。

こうした食糧難の中で、食物が盗まれる事件もたびたび発生します。例えばワラビやその粉が盗まれたことが政基の日記に確認できます。文亀3年の9月には紀伊国池田（現紀の川市）の人が、飢饉に備えるために入山田村にこっそりと入り込んでワラビを掘り出したことが問題となっています。また文亀4年2月には、たびたびワラビの粉が盗まれる事件が発生したため、見張りを置いて監視していました。すると15日の晩に盗人が現れたため、見張り達はその家まで追いかけて、家の中で盗人とその母を処刑します。また3月25日にもワラビの粉を盗んだとして、独り身の女性2人に17、18歳くらいの男子に年少の子ども数人が処刑されています。

飢饉という特殊な状況下であっても、当時物を盗むことは重罪で、見つかった場合は処刑されることが多かったのです。そんなリスクを抱えながら、なおも盗みをはたらく姿からは、食いつなぐためになりふり構っていられない、そんな春の様子が見て取れます。民衆にとって春は必ずしも恵みがもたらされる季節ではなかったのです。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日　月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料　無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ



泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

㉓学校シリーズ(3) 市立第三小学校

▲昭和30年ごろの第三小学校の校舎。第三小学校は、昭和26年に創立されました。

▼昭和40年の第三小学校の和歌山側の上空から撮影した空撮写真。隣接する南海本線の線路は、現在高架になっています。

▲現在の第三小学校。特色ある教育活動を展開している特認校に指定され、ICTを活用した学習に取り組んでいます。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ（https://adeac.jp/izumisano-city/top/）」でも公開中！！